

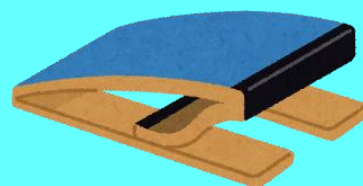
「制約やアフオーダンスをデザインする跳び箱の授業づくり」

提案者：吉澤 潤

今回は体育専科として、低中高学年でどのような授業づくりをしているかを報告します。担任のときと同じような体育は全くできませんから、従来の「答えとしての運動」を教えてしまう授業づくりではなく、「そのスポーツや運動の面白さに出会えるため」の授業づくりを模索しています。そこで辿り着いたのがエコロジカルアプローチという指導理論です。エコロジカルアプローチそのものをしてはありますが、制約やアフオーダンスをどのように仕組むかが授業づくりの鍵なのではないかということ報告します。

(普段から若い先生からの悩みや疑問に答えて)

- ・ 跳び箱ってどうして難しいんですか？
- ・ 跳び箱ならではの面白さって何ですか？
 つか、跳び越す以外に何をやるんですか？
- ・ 低と3年のギャップが大き過ぎるんですけど…
- ・ 科学的にってどういうことですか？



【主な内容】

1. 低学年編
 - ① 非日常的な動きのために考えること
 - ② ピタッと止まることの追求
2. 中学年編
 - ① 跳び箱遊びと指導要領の技の隙間
 - ② 横跳び越しとの相違点の追求
3. 高学年編
 - ① 科学的に考えると何に気を付けるのか
 - ② 表現性の追求



今年度の東京支部研究部の研究テーマは「グループ学習で学校現場を切り拓く」です。「グループ学習」をテーマに、現場では語られにくくなっている教科内容・子ども理解との関係を考えていきたいと思っております。ぜひ、ご参加下さい！

○日時 6月10日(土)14:00～

○会場 世田谷区立武蔵丘小学校 ※オンライン参加可

京王線 芦花公園駅より徒歩10分程度

井の頭線 富士見ヶ丘駅より徒歩10分程度

○参加申し込み(無料)

【対面参加】

事前申し込みの必要はありません。当日、直接会場までお越し下さい。

【オンライン参加】

希望の方は下記メールアドレスまでお知らせ下さい。IDとパスワードをお送りします。

nishidakei030@yahoo.co.jp (研究部長 西田 佳 まで)